科目ナンバリング			
授業科目名 <英訳>	地球環境学のすすめ Introduction to Global Environmental Studies	担当者所属 職名・氏名	地球環境学舎 教授 西前 出 地球環境学舎 准教授 吉野 章 地球環境学舎 准教授 深町 加津枝 地球環境学舎 准教授 田中 周平 地球環境学舎 准教授 乾 徹 地球環境学舎 教授 小林 広英 人間・環境学研究科 教授 岩谷 彩子 地球環境学舎 准教授 真常 仁志 地球環境学舎 准教授 森 晶寿 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 原田 英典 農学研究科 准教授 檀浦 正子 地球環境学舎 准教授 浅利 美鈴 地球環境学舎 准教授 落合 知帆

群	統合科学科目群	分野(分類)	環境	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	木1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

多くの関心を集めている地球環境問題に対し、その「解決」を目指す地球環境学の概要を習得することを目指している。地球環境問題を理解し紐解くための文理融合型の幅広い知識を学習し、複眼的な見方から理解を深めることを目的としている。

[到達目標]

地球環境学に関する幅広い知識を得ると共に、文理融合型の学問に対する取り組み方や学習方法について理解する。

[授業計画と内容]

以下の３つの主題に関する内容をリレー形式で概説する。詳細な講義日程、各回の講義内容などについては、初回の講義において日程表を配付する。地球環境学堂に所属する教員の研究や視点を通して、「地球環境学」の必要性、課題、アプローチの方法等について概説する。全講義を通して，幹事担当の教員が参加し，各回の講義担当の教員との議論も含めながら進行する。

Ⅰ．問題設定の枠組みを考える
II．環境変化に対応する
III．自然災害に適応する

講義内容（変更の可能性あり，初回講義にて確認すること）
第一回　ガイダンス，および「遊牧文化と草原の持続性」（西前出）
第二回　地域に根ざした文化的景観の保全（西前出，深町加津枝）
第三回　風土建築から学ぶ持続的人間環境（西前出，小林広英）
第四回　世界、京都、京都大学、そして私の持続可能性（西前出，浅利美鈴）
第五回　環境と衛生：人の尊厳と健康を守るしものふんべつ（西前出，原田英典）
第六回　気候変動政策とエネルギー政策の統合（西前出，森晶寿）
第七回　新規有機化合物の有用性と危険性（西前出，田中周平）
第八回　森林と環境ー森をめぐる水と炭素、環境との相互作用（西前出，檀浦正子）
第九回　世界遺産と地域防災（西前出，落合知帆）

地球環境学のすすめ(2)へ続く↓↓↓

地球環境学のすすめ(2)

第十回　砂漠化問題に対する地球環境学的アプローチ（西前出，真常仁志）
第十一回　大地をめぐる環境保全・創造－「土」の機能を活用する（西前出，乾徹）
第十二回　安全と安心の間－リスクコミュニケーションを考える－（西前出，吉野章）
第十三回　ヘビの見世物の終焉から考える自然と文化の共生（西前出，岩谷彩子）
第十四回　総括（全教員の参加による討論）
フィードバック（方法は別途連絡します）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義中に教員がレポート等の課題を課す。提出されたレポート等に基づき、各教員が各回の得点を決定する。ただし，講義によっては「出席と参加の状況」で評価する場合もある。総合得点（100点満点）によって評価する。

[教科書]

京都大学地球環境学堂（編）『地球環境学-複眼的な見方と対応力を学ぶ』（丸善）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
特に指定しない

（関連ＵＲＬ）

http://www.ges.kyoto-u.ac.jp/index.html

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書「地球環境学-複眼的な見方と対応力を学ぶ」を事前に学習しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

文系・理系にとらわれず、広い視野に立って講義する。特定の専門に特化した知識は必要なく，初心者にとっても理解しやすい講義を行う。ただし、教科書は必読である。
授業中，わからないことについては積極的な質問を期待する。

[主要授業科目（学部・学科名）]